

## 地方で暮らす・働くHUB(ハブ)づくり (愛媛県内子町)

### 取組概要

地方で暮らすためのHUB(ハブ)となる「内子町移住コーディネーター制度」、働くことのHUBとなるコワーキングスペース「COWORKING-HUB南予サイン」を活用した「テレワーク移住交流促進事業」を行政が実施し、地域住民のキーマンたちが人をつなぐHUBとなって、内子町へのよりよい移住・定住を促進する。

### 取組の効果

移住コーディネーターによる相談対応や情報収集・発信、調査活動は、行政では行き届かないきめ細やかな取り組みであり、彼らによる令和5年度実績は、移住相談や地域案内等が延べ約180件、関係人口等の創出は延べ約400人、移住者は5世帯7人。HUBとなって人と地域をつないでいる。

テレワーク移住交流促進事業の令和5年度実績としては、東京での相談会、地域での講座、お試しテレワーク・企業受け入れ等、延べ約200人(内企業7社含む)が参加。5年度に利用のあった東京の大手企業は、内子町をテレワークの職場として認可し、お試した後も当町への来訪や継続利用があった。

地域のキーマンを含む関係者が連携し、行政では実現が難しい分野を担うHUBとなっている。

### 創意・工夫した点

「COWORKING-HUB南予サイン」が内子町の中心部に存在し、そこを拠点に「テレワーク移住交流促進事業」を実施している点は独自性があると思う。地方での仕事や暮らしに関心のある層に対する「お試しテレワーク」は、体験者の感想からも地方移住もしくは2拠点生活等の現実味を増す効果があると言える。仕事をしながら暮らすように滞在することができるのは、地域の魅力を体感でき、かつ当町の規模感ゆえに実現できるものと思う。

人口 15,081人 (R6.1.1現在)

担当 総務課 政策調整班



コワーキングスペース「南予サイン」



移住検討者の体験ツアーのアテンド